プロスポーツ
PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE
広島競輪場
「全プロ記念競輪」号外版

山口 拳矢（岐阜/117期）

タテだけに頼らず、位置を取ってから仕掛ける競走スタイルなので成績は安定している。今年はF1戦で5V、すべてオール連対で飾っている。当所は昨年12月の記念開催で11①❸着と好走した実績もあり注目の一車だ。

竹内 雄作（岐阜/99期）

一息不足の場所が続いていたが、ダービーでは①②着で準決に進出。一次予選を逃げ切ると、二次予選は逃げて2着。準決でも果敢に駆けていて復活を猛アピール。力強さが甦ってきたので目が離せない。

小林 泰正（群馬/113期）

直近4カ月の連がらみは54%が先行してのもので、ここのところ組み立てが積極的になってきた。今年は15勝していて、早くも昨年の10勝を大きく上回っており結果も出している。うまく流れに乗れると大物食いも。

全プロ記念競輪　特選・選抜戦　展望

多士済々、勢いを示すのは？

翌日に開催される予定だった「第68回全日本プロ選手権自転車競技大会」の出場選手に出走権が与えられる大会で、S班に所属の選手に加えて選考期間において2カ月以上「トラック種目強化指定A」に所属した者、選考期間における平均競走得点上位者の合計27名が、2日目に行われるメインの「スーパープロピストレーサー賞」への出場を争う「優秀」に出場する概定。ただ、「トラック種目強化指定A」に所属する選手はこぞって欠場になった上に、「トラック種目強化指定B」所属する選手からも欠場者が出ている。従って「優秀」に繰り上がる選手もでてきて、「初日特選」、「選抜」を走る選手も顔触れが若干変わっている。それを考えても全体的に自力選手が多く、「初日特選」、「選抜」も激しいバトルの連続となりそう。また、初日の優秀戦を走る選手とは2日目も一緒に走らない概定なので、勢いで連勝する選手も少なくない点も注目ポイント。

まずは推奨に挙げた以外の機動型からみていきたい。大きく30歳で分けても、鈴木庸之、中本匠栄、渡邉一成、原田研太朗、山田英明、山本伸一、三谷竜生、皿屋豊、中川誠一郎、根田空史、野口裕史、松岡健介、森山智徳、中西大と30歳以上の選手にはビッグネームと近況良好な選手がそろっている。山田は別格としても、近況から鈴木庸、渡邉一、皿屋、根田、野口の走りからは目が離せない。鈴木庸はダービーの最終日に古性優がまくったさらに上をまくって挙げた勝ち星が光る。〝今年の優勝はF1戦ばかり。7車立ての恩恵が大きい。グレード戦で結果を出したい〟と話していた渡邉はダービーで3連対。組み立てをしっかりできれば、まだタイトルまで狙えるスピードはここでも猛威を振るう。ダービーでは3走目から目覚めた原田。最終日は上がり10秒9のまくりを決めて後続を千切っていた。狙い澄ましての一撃はやはり怖い。根田、野口、皿屋、中西の年齢を全く感じさせない先行は競輪界の華。仕上がっていてダービーでは準決に進出した根田、4月西武園記念を完全優勝した野口はここも別線を完封して南関勢を上位に導きそう。ダービーで一次予選を快勝した皿屋も充実一途で大駆けの期待が持てる。中西も5月向日町を完全Vなど白星ラッシュだ。

若手の注目株は寺崎浩平、小川真太郎、渡邉雄太、島川雅貴、太田竜馬、坂井洋、久米康平、谷口遼平ら。ダービーで組み立てをミスして一次予選敗退に終わった太田だったが、その後は3連勝。そろった徳島勢のけん引役として役割を果たそう。寺崎は相変らずレース運びに甘さがあるが、スピードは一級品。ツボにはまれば一発十分だろう。

一方、追い込み勢は前次第といったところだが、目標に事欠かない小倉竜二はここも存在感を発揮しそう。同様にタテ脚も健在な阿竹智史、渡部哲男も連対有力だし、栢野智典、桑原大志、岩津裕介の中国勢もチャンスがありそう。また、ダービーでは一次予選、二次予選を連勝で勝ち上がった岡村潤の差し脚、自力兼備の松谷秀幸らの南関勢も黙っていない、展開不問で伸びている神田紘輔も怖い存在。

鈴木 庸之

渡邉 一成

根田空史

CYCLE
JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業
競輪とオートレースの売り上げの一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。